

学校名	福井県立若狭東高等学校
-----	-------------

## 平成 29 年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

### I 委託事業の内容

#### 1. 研究開発課題名

農業を中核に商業・工業と融合した産業を創り、「地域資源を活かし売れる商品をつくるテクノアグリ」人材の育成

#### 2. 研究の目的

薬用植物の産地化、植物工場など高度な施設園芸、経営やマーケティング、技術開発など「生産、調理・加工、販売」に総合的に取り組める力を身につける「テクノアグリプログラム」を研究開発し、地方を創生する産業づくりに貢献できる人材育成を目指す。

#### 3. 実施期間

契約日から平成 30 年 3 月 15 日まで

#### 4. 当該年度における実施計画

3 年目となる今年度は、薬用植物の取り組みとして、地域の農家によるコウギク栽培の開始、コウギク以外の薬用植物の経営特性の検証、薬膳レシピの充実などを図る。さらに、これまで開発してきた薬膳レシピや薬用植物栽培について冊子を作成し、地方自治体や企業と連携しながら、薬膳教室等を利用し地域への普及を行う。植物工場の取り組みとして、平成 28 年度に行った実験結果をもとに高く売れる収穫物の栽培方法の検討や人工光（LED）を利用した植物栽培装置の完成を目指す。さらに新規の学校設定科目「生産工学」を開講する。これらの活動を通して生徒に身に付けさせたい専門的な知識や技術（植物工場に関わる分析機器の使い方、栽培装置の仕組みなど）を習得させる。

実施にあたっては平成 28 年度と同様に、生徒自らが考える過程に重きを置き、各単元で目標とした知識や技術などを習得できたか、生徒にどのような力を育成することができたか評価しながら進めていく。

農林水産部と高校教育課は、福井県が推進している薬用植物栽培やスマート園芸に関する実習の受け入れ調整、進路情報の提供などの支援を行う。

最終年のまとめとして、SPH 事業で取組む様々な教育活動について、相互の関連性や 3 年間の進行等が確認できるよう、ロードマップを作成する。この中から、生徒に身に付けさせたい「技術開発力」、「経営力」、「マーケティング力」などの資質・能力の育成に有効な活動を検証する。薬用植物や植物工場に関して各学年における取組み目標を明確にした 3 年間の学

びの体系（学習プログラム）を作成し、福井県における農業の変化に対応した新しい農業経営モデルの構築に向け本研究を活用する。

（１）薬用植物や地域の有用植物などの栽培と製品化（地域創造科、生活創造科）

薬用植物の栽培・加工・調理に関する基礎的な知識と技術を有する生徒を育成するために、薬用植物の栽培試験や普及に取り組むとともに、生産した薬用植物の出荷先の確保のための商品開発や販売促進方法を学び、薬膳メニューの充実も図る。

①薬用植物の栽培実験と商品開発（地域創造科食農創造コース）

- ・ 1年生 「農業と環境」、「総合実習」
- ・ 2年生 「農業ビジネス」（学校設定科目）、「草花」、「総合実習」
- ・ 3年生 「課題研究」、「総合実習」

薬用植物の種類や特性、栽培に関する専門的な知識や技術の習得するために、小浜市と連携して栽培や商品開発を行っているコウギクの農家への普及を図るとともに、栽培方法を検討してきたハトムギやステビアなどの経営的特性を明らかにする。コウギクの栽培では、農家で栽培したときの収穫量に見合った出荷先を確保できるようにする。これまでに栽培してきた薬用植物について、地域へ普及させるために薬膳と合わせて資料を作成する。また、生徒は薬学的な知識（効果・効能）に関して苦手意識を持っているため、指導方法を検討する。

商品開発に関する手法の習得では、引き続き商品開発に向けて試作品からの商品化を商業科と協力して進める。薬用植物の栽培に関しては、薬用植物に対する有識者、商品開発に関しては、地域の食品製造事業者と連携して実施し、コスト管理や広報など経営的な視点を取り入れる。農業科で開発した商品（「解体新茶」など）を売るための販売手法の学習を商業科と協力して実施する。

薬用植物について初めて学習することとなる1年生では、薬用植物に対する興味や関心を高めることを主な目的として実施する。

②地域資源を活かした里山の保全（地域創造科地域開発コース）

- ・ 2年生 「総合実習」
- ・ 3年生 「総合実習」、「課題研究」

林産物の利用・生産・加工方法を習得するために、平成28年度の調査で発見した地域にある薬木として利用できる樹木などの研究を進め、樹木に関する知識や里山の環境問題について理解を深める。薬木や林産物の活用方法について生徒が主体となったイベントを企画し、生徒のプレゼンテーション力などを育成するとともに、地域への普及を行う。地域の関連団体と協力し林産物の活用方法を広めていく。

③薬膳などのメニューの開発（生活創造科）

- ・ 3年生 「課題研究」、「フードデザイン」

これまでに実施できていなかった夏の薬膳や地域の里山に自生しているナツメを利用した薬膳など、季節に合わせた新たな薬膳のレシピを完成させる。薬膳の材料には、地域創造科で栽培している薬用植物も取り入れ新メニューを考案する。平成28年度も実施した薬膳を提供する飲食店での1日高校生レストランや薬膳教室も引き続き開催するとともに、薬膳と薬用植物を合わせた資料を作成して地域への普及を図る。

また、薬用植物であり地域の特産物でもあるクズやコンニャクについては、若狭町か

らクズとウメを使用した商品開発の要望があるため、関連機関と共同して商品化に取り組み地域特産物の振興を図る。

## (2) 閉鎖型植物工場など人工光による植物栽培・太陽光利用型植物工場（地域創造科）

植物工場などでの栽培や施設管理などに関する知識と技術を習得するために、栽培に必要な技術や培養液の分析方法など、実践的な学習を行う。植物工場関係の大学や企業と連携して専門的な知識や技術を習得する。

### ①栽培条件と成分の関係など栽培実験、生産技術習得

- ・ 1年生 「農業と環境」、「総合実習」
- ・ 2年生 「野菜」、「総合実習」
- ・ 3年生 「生産工学」（学校設定科目）、「課題研究」、「野菜」、「総合実習」

高付加価値な野菜を生産するための知識や技術を習得するために、平成28年度に実施した青色単色光補光や低カリウム中玉トマトの実験結果を検証する。また、経営的特性を把握し太陽光人工光併用型植物工場を活用した若狭東高校オリジナルの栽培方法を創るための研究をする。授業では生徒が考察する時間を十分に確保できるように配慮する。

平成29年度に開講する「生産工学」（学校設定科目）では、閉鎖型および太陽光利用型植物工場での栽培を実践的に学習し、野菜の栽培方法についての知識や技術を習得させる。また、栽培施設や装置、測定機器など工学的な視点からの学習も行う。さらに、植物の生育は環境の変化に影響を受けることから、植物生理など理科的な内容についても学習し、植物の生育状態に合わせて工場内の環境を制御する力を身に付けた人材の育成に努める。

この他、県園芸研究センターでトマトなどの養液栽培について、技術指導を受ける機会を設ける。また、県内で実際に稼働している閉鎖型植物工場と太陽光利用型植物工場を見学し、生産現場と校内実験との関連付けを意識させる。

植物工場について初めて学習する1年生は、植物工場に対する興味や関心を高めることを主な目的として実施する。

## (3) 実用的園芸生産施設の製作

植物工場など高度な施設園芸で必要となる工学的な知識や技術を習得するために、栽培装置の仕組みを理解できるように小型栽培装置の試作を行う。

### ①工業科と共同で行うLEDを光源とした栽培装置の試作（地域創造科）

- ・ 3年生 「課題研究」、「野菜」、「総合実習」

単色LED光源下での栽培し、生育状態や成分分析などの実験結果を参考に装置を改良する。

## (4) 経営やマーケティング、技術開発ができる人材の育成（学校設定科目など）

①2年地域創造科食農創造コースでは農業の6次産業化や薬用植物の栽培など、商品開発や販路拡大を実現するための知識や技術を習得するため、学校設定科目「農業ビジネス」を平成28年度に開設した。平成29年度は栽培品目を精選し、産業財産権に関する学

習も取り入れ指導内容の充実を図る。

- ②植物工場についての知識や技術の習得を目標とする「生産工学」を3年地域創造科食農創造コースの総合選択で開講し、平成28年度に作成した年間指導計画に沿って授業を進め、課題や成果を見つけていくことで指導内容の充実を図る。また、工業科や商業科の生徒を対象とした「生物活用」を総合選択で開講し、農業に対する理解を深めさせる。

(5) 外部講師等の活用

講習会の開催に当たっては、実施後に振り返りの時間を十分に設け知識の定着を図る。

- ①薬用植物の栽培について講習会を開催し、本校で栽培している薬用植物（コウギク、ステビア、ムラサキなど）の栽培技術の習得を図る。
- ②薬膳講習会を開催し、薬膳独特の考え方を学び調理技術の習得を図る。また、小浜市で薬膳を取り扱う飲食店と連携し、経営的な視点を持ってメニュー作りができる力を育成する。
- ③商品開発について小浜市や若狭町の食品製造事業者と連携し、加工技術や販売手法の習得を図る。また、地元で生産した薬用植物の出荷先を探る。
- ④東京農業大学と連携した講習会を開催し、植物の機能性成分に関する知識や技術の習得を図る。
- ⑤植物工場の光環境に関する学習では、施設については京都大学、栽培については福井県園芸研究センターと連携して実施する。
- ⑥知的財産についての講習会を開催し、産業財産権に関する知識の習得を図る。
- ⑦小浜市の地域おこし協力隊や地域の連携先との活動では、若狭地域を広い視野で捉えながら研究活動を推進できるよう配慮する。

(6) 目標、その他

① 定性目標

研究内容		評価目標	測定方法
薬用植物	栽培実験 ・普及	○薬用植物に対する興味・関心の向上 ○栽培を地域に広めるための資料の作成などを通じた表現力の向上 ○専門的な知識や技術の習得	●作品法（成果物、実習記録、プリント） ●自己・相互評価 ●観察法（行動、発言、発表、実技） ●アンケート調査
	栽培講習会・先進地見学	○薬用植物に対する興味・関心の向上 ○専門的な知識や技術の習得	●作品法（プリント） ●自己評価 ●観察法（行動、発言） ●アンケート調査

	商品開発	食品製造事業者と連携した商品開発講習会の実施	○商品開発の手法の習得 ○専門的な知識や技術の習得	●作品法（成果物、実習記録、プリント） ●自己・相互評価 ●観察法（行動、発言、発表、実技） ●アンケート調査	
		これまでに開発した商品の販売促進	○商品販売の手法の習得 ○専門的な知識や技術の習得		
	地域資源と里山	薬木など活用と体験教室の実施	○地域資源の発掘 ○専門的な知識や技術の習得 ○地域住民を対象とした体験教室の開催による表現力の向上		
	薬膳	薬膳、クズ・コンニャク商品開発講習会の実施	○専門的な知識や技術の習得		
1日高校生レストランの実施		○経営的な視点を取り入れたメニュー開発 ○専門的な知識や技術の習得			
植物工場	栽培の基礎	植物工場での栽培技術の基礎に関する授業の実施	○植物工場に対する興味・関心の向上 ○専門的な知識や技術の習得	●観察法（行動、発言、発表、実技） ●アンケート調査	
		太陽光型植物工場でのインターンシップの実施	○地域の農業に対する興味・関心の向上 ○勤労観・職業観の育成 ○専門的な知識や技術の習得		●作品法（実習記録、プリント） ●自己評価 ●受入先評価 ●観察法（行動、発言、実技） ●アンケート調査
		福井県園芸研究センターでの技術指導の実施	○地域の農業に対する興味・関心の向上 ○専門的な知識や技術の習得		
	高付加価値化	植物の機能性に関する講習会の実施	○専門的な知識や技術の習得	●作品法（成果物、実習記録、プリント） ●自己・相互評価 ●観察法（行動、発言、発表、実技） ●アンケート調査	
		栽培環境と野菜の成分に関する栽培実験の実施と経営特性の検証	○専門的な知識や技術の習得		
		研究機関・先進地見学研修の実施	○植物工場に対する興味・関心の向上		

			○植物工場の運営に対する理解の向上 ○専門的な知識や技術の習得	●観察法（行動、発言、実技） ●アンケート調査
	LED	光環境と植物の生育に関する講習会の実施	○植物工場に対する興味・関心の向上 ○専門的な知識や技術の習得	●作品法（実習記録、プリント） ●自己評価 ●観察法（行動、発言、実技） ●アンケート調査
		小型栽培装置の製作と栽培実験の実施	○専門的な知識や技術の習得	●作品法（成果物、実習記録、プリント） ●自己・相互評価
経営・技術開発	学校設定科目「農業ビジネス」	学校設定科目「農業ビジネス」の実施	○地域農業に対する興味・関心の向上 ○薬用植物に対する興味・関心の向上 ○ビジネスの視点を取り入れた農業に対する興味・関心の向上 ○専門的な知識や技術の習得	●観察法（行動、発言、発表、実技） ●アンケート調査
	科目「農業経営」など	全国商業高等学校長協会簿記実務検定3級の受検	○専門的な知識や技術の習得	●自己評価 ●アンケート調査
		模擬的な取引の発生から決算書類の作成までを通したレポートの作成	○農業経営に対する興味・関心の向上 ○専門的な知識や技術の習得	●作品法（成果物） ●自己評価 ●観察法（行動、発言） ●アンケート調査
学校設定科目「生産工学」	学校設定科目「生産工学」の実施	○地域農業に対する興味・関心の向上 ○植物工場に対する興味・関心の向上 ○植物工場の運営に対する興味・関心の向上 ○専門的な知識や技術の習得	●作品法（成果物、実習記録、プリント） ●自己・相互評価 ●観察法（行動、発言、発表、実技） ●アンケート調査	

②定量目標

研究内容		評価目標	測定方法
薬用植物	栽培実験・普及	薬用植物（コウギク）栽培の農家への普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実施状況（回数、日数など）</li> <li>●参加者数</li> <li>●協力団体数</li> <li>●ペーパーテスト（定期考査、小テスト）</li> <li>●各種大会への参加状況、大会結果</li> <li>●成果物の状況（ワークシート、指導計画、評価用アンケートなど）</li> </ul>
		これまでに選定した品目の経営的特性の把握や栽培技術資料の作成	
	栽培講習会・先進地見学	本校での栽培講習会や薬用植物に関する見学研修の実施	
	商品開発	食品製造事業者と連携した商品開発講習会の実施	
		これまでに開発した商品の販売促進	
	地域資源と里山	薬木など活用と体験教室の実施	
薬膳	薬膳、クズ・コンニャク商品開発講習会の実施		

		1日高校生レストランの実施	<input type="checkbox"/> 共同開発したメニューの数 <input type="checkbox"/> 専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上 <input type="checkbox"/> 意欲的な実習への取り組み：80%以上	
植物工場	栽培の基礎	植物工場での栽培技術の基礎に関する授業の実施	<input type="checkbox"/> 植物工場に対する興味・関心の向上：80%以上 <input type="checkbox"/> 専門的な知識や技術の習得：80%以上 <input type="checkbox"/> 意欲的な実習への取り組み：80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実施状況（回数、日数など）</li> <li>●参加者数</li> <li>●協力団体数</li> <li>●ペーパーテスト（定期考査、小テスト）</li> <li>●成果物の状況（ワークシート、指導計画、評価用アンケートなど）</li> </ul>
		太陽光型植物工場でのインターンシップの実施	<input type="checkbox"/> 地域の農業に対する興味・関心の向上：80%以上 <input type="checkbox"/> 専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上 <input type="checkbox"/> 勤労に対する意欲の向上：80%以上 <input type="checkbox"/> 意欲的な実習への取り組み：80%以上	
		福井県園芸研究センターでの技術指導の実施	<input type="checkbox"/> 地域の農業に対する興味・関心の向上：80%以上 <input type="checkbox"/> 専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上 <input type="checkbox"/> 意欲的な実習への取り組み：80%以上	
	高付加価値化	植物の機能性に関する講習会の実施	<input type="checkbox"/> 専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上 <input type="checkbox"/> 意欲的な実習への取り組み：80%以上	
		栽培環境と野菜の成分に関する栽培実験の実施と経営特性の検証	<input type="checkbox"/> 専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上 <input type="checkbox"/> 意欲的な実習への取り組み：80%以上	

		研究機関・先進地見学 研修の実施	○植物工場に対する興味・関心の向上：80%以上 ○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上	
	LED	光環境と植物の生育に関する講習会の実施	○植物工場に対する興味・関心の向上：80%以上 ○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上	
		小型栽培装置の製作と栽培実験の実施	○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上 ○意欲的な実習への取り組み：80%以上	
経営・技術開発	学校設定科目「農業ビジネス」	学校設定科目「農業ビジネス」の実施	○地域農業に対する興味・関心の向上：80%以上 ○薬用植物に対する興味・関心の向上：80%以上 ○ビジネスの視点を取り入れた農業に対する興味・関心の向上：80%以上 ○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上 ○意欲的な実習への取り組み：80%以上	●実施状況（回数、日数など） ●参加者数 ●ペーパーテスト（定期考査、小テスト） ●資格取得状況 ●成果物の状況（ワークシート、指導計画、評価用アンケートなど）
	科目「農業経営」など	全国商業高等学校長協会簿記実務検定3級の受検	○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上 ○全国商業高等学校長協会簿記実務検定3級合格率：70%（H27の合格率は33%、H28は可否結果待ち）	
		模擬的な取引の発生から決算書類の作成までを通したレポートの作成	○農業経営に対する興味・関心の向上：80%以上 ○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上	

	学校設定科目「生産工学」の実施 「生産工学」	○地域農業に対する興味・関心の向上：80%以上 ○植物工場に対する興味・関心の向上：80%以上 ○植物工場の運営に対する興味・関心の向上：80%以上 ○専門的な知識や技術の習得に対する関心・意欲の向上：80%以上 ○意欲的な実習への取り組み：80%以上	
--	---------------------------	--	--

※アンケート調査は、参加生徒、受入機関（協力者）、教職員などを対象として実施する。

- ③ S P H事業の成果を地域に広げて行くために「彦姫祭」や「最終成果発表会」を開催する。彦姫祭では開発した商品や研究内容を地域にP Rする。最終成果発表会では各学科の取り組む課題研究の内容についてポスターセッションし、研究成果についてはプレゼンテーションで発表することで生徒のコミュニケーション能力を向上させる。研究の進捗状況や講演会の様子などを掲載したS P H通信を発行（印刷物とホームページへの掲載）する。本校ホームページにS P H活動の各学科のページを作成する。地域のイベントにも積極的に出展し、研究成果の広報に努める。
- ④ 全国高校生食育王選手権やみんなDE笑顔プロジェクトなどの大会に参加するとともに、年度末には成果を発表する機会を設ける。
- ⑤ 薬用植物や植物工場に関する教員の指導力向上を目的として、現地見学や研修会などを引き続き開催する。
- ⑥ S P H事業で連携した外部団体や個人との協力体制を維持できるよう、小浜市との連携・協力に関する協定等を活用し研究内容の充実を図る。

## 5. 実施体制

運営指導委員会、研究担当者会議、研究推進委員会は学期に1回程度を目安に開催し、研究の進捗状況の報告や指導助言などを得る。なお、運営指導委員会では薬用植物や植物工場、食品製造やマーケティングに関する有識者、行政、教育関係、民間など8名に依頼する予定である。運営指導委員からは運営指導委員会会議でのご指導だけでなく、薬用植物栽培、薬用植物の特徴を活かした商品開発、植物工場の現状や今後のあるべき姿に関する講習など事業の推進にも御協力いただく。

## (1) 運営指導委員会

氏名	職名	役割分担・担当教科
小西 淳二	京都大学名誉教授・公立小浜病院名誉院長	薬用植物栽培の助言と指導
渡辺 斉	日本植物園協会名誉会員	薬用植物栽培の助言と指導
清水 浩	京都大学大学院農学研究科教授	植物工場の助言と指導
松宮 伝	小浜海産物㈱	マーケティングに関する助言と指導
岡本 武士	岡本善七製菓店主	商品開発の助言と指導
山本 聡	㈱Hundred Smile 代表取締役	太陽光型植物工場の助言と指導
巻田 幸寿	福井県農林水産部地域農業課農業人材支援室長	農林水産行政からの助言と指導
清川 亨	福井県教育庁高校教育課長	高校教育からの助言と指導

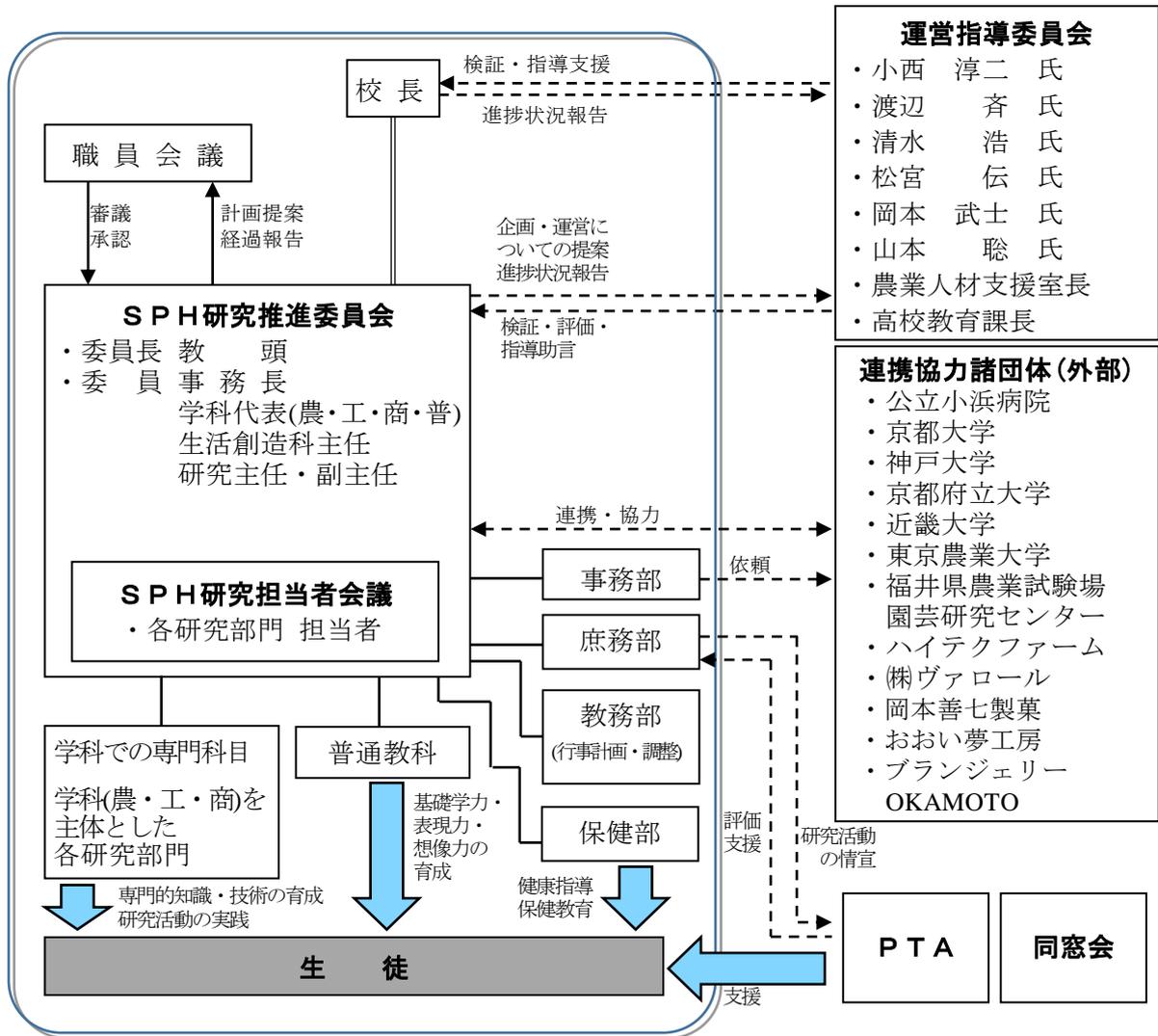
## (2) 研究担当者

氏名	職名	役割分担・担当教科
中林 春男	教諭	研究主任・統括・農業科
水島 智史	教諭	研究副主任・植物工場・農業科
清水 浩美	教諭	広報・農業科
渡辺 可苗	教諭	薬膳・農業科
井上 ちあき	教諭	商品開発・農業科
橋本 竜	教諭	水耕栽培装置開発助言・工業科
小林 浩樹	教諭	商品販売及び市場調査助言・商業科
見越 秀和	実習教諭	薬用植物栽培及び商品開発・農業科
相蘇 龍一	実習助手	薬用植物栽培及び商品開発・農業科
中島 勝之	実習教諭	水耕栽培装置開発助言・広報・工業科

## (3) 研究推進委員会

氏名	所属・職名	役割・専門分野等
松宮 武彦	校長	全体統括
杉本 智彦	教頭	委員長
寺井 靖夫	事務長	会計責任者
中林 春男	教諭	研究主任
水島 智史	教諭	研究副主任
清水 浩美	教諭	農業科代表
芝田 景介	教諭	工業科代表
小林 浩樹	教諭	商業科代表
渡辺 可苗	教諭	生活創造科代表
吉村 知也	教諭	普通教科代表
長澤 亮	教諭	商業科広報

(4) 校内における体制図



6. 研究内容別実施時期

研究内容		対象学年	実施時期										
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
(1) 薬用植物	心の向上 ①興味・関	1年生	野外調査・講習会										
	商品開発 ①栽培実験・	2年生	コウギク、ハトムギ、ムラサキなどの栽培実験・商品開発・講習会・評価										
		3年生	農家へのコウギク栽培普及活動 コウギク、ステビア、ハトムギ、レモングラス などの栽培実験・商品開発・講習会・評価							発表会			
	源と里山 ②地域資	2・3年生	地域にある薬木としても利用できる樹木やアブラ ギリの調査・利用方法の検討・体験教室の開催							発表会			
	など ③薬膳	3年生	薬膳、クズ、コンニャクに関する講習会・試作・試 作品提供・評価							発表会			
(2) 植物工場	心の向上 ①興味・関	1年生										講習会	
	の基礎 ①栽培	2年生	講習会・栽培技術・成分分析手法習得										
	価値化 ①高付加	3年生	講習会・栽培試験・現地見学							発表会			
(3) LED	①栽培実験	3年生	栽培装置試作・栽培実験・評価							発表会			

(4) 経営・技術開発	①学校 設定科目	2年生	学校設定科目「農業ビジネス」の年間指導計画に沿った授業の実施・課題や成果の洗い出し
	②学校 設定科目	3年生	学校設定科目「生産工学」の年間指導計画に沿った授業の実施・課題や成果の洗い出し
(5) 人材育成			(1)～(4)の研究を踏まえた「テクノアグリプログラム」による人材育成を実施
	①広報		研究の進捗状況にあわせてSPH通信の発行やホームページなどの更新 1学期に公開授業、2学期に彦姫祭と成果発表会の実施
(6) その他	②教員 研修		外部連携団体や外部講師による講演・講習および先進施設・設備の見学

※実施時期は、事業計画書提出時のものであり、実際の事業着手は契約締結後とする。

#### 7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目

#### 8. 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

- ( ) 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。  
 (○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

#### 9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有  無

※有の場合、別紙3に詳細を記載のこと。

#### II 委託事業経費

別紙1に記載

#### III 事業連絡窓口等

別紙2に記載